

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	吉澤 直也	所属	U12 カテゴリー
大会名	第57回マクドナルド全国ミニバスケットボール大会		
期間	2026年 3月28日 ~ 31日（参加日：3月28日～30日）		
会場	京王アリーナ TOKYO（武蔵野の森総合スポーツプラザ）		
スケジュール			
期日	内容	場所	
3月 23日	審判会議、研修会	ZOOM 会議 参加者自宅他	
審判会議、研修会 講義内容			
<p>●全国大会に臨む際の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> •初めて会う人、組む人、見る人→コート内外での繋がりを作れる環境を！ •大会期間中にどうありたいか、どのように成長したいか？ →大会に参加する目的を明確に！ <p>●大会の主な特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> •特別競技ルールを採用 3 ポイントあり、リングの高さが 305cm、ボールの大きさが 6号球、コートの広さが U15 以上と同じ。 •U12 で起こりうること 1on1 →中心選手の特徴の把握、ドライブ、ジャンプショット、ペイントアタック ルーズボール →正当？ファウル？、アローの向き、ショットクロック、ボールコントロール 感情の把握 →プレイに集中させたい、感情の上下を知る、声掛け <p>●2PO メカニクスの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> •ワーキングエリアの確認 トレイル→コートの中をうまく使ってプレイを見に行く リード→クローズダウンとスイッチサイドを場面によって使い分けを！ スイッチサイド→PGC でシチュエーションを確認 •エリア 3 の見方 トレイル→プライマリのマッチアップを視野に入れるためのポジションをとる ※ボール 100%にならないように左手のプレイにも視野をもつ リード→プライマリのマッチアップと自分のエリアにプレイが向かってくることを想定 •トレイルサイドのドライブ ドライブに対してステイしすぎず、ロートレイルを実践し、プレイの始まりからコネクト リードはクローズダウンからも 1 歩踏み込んでショットのコンタクトの角度を取りに行く ※ヘルプディフェンスの存在を忘れずにレフリーディフェンス •3P の見方 プライマリとアシスト トレイル→プライマリの 3P はより足元が見える位置取りを実践 			

リード→トレイルが見にくいアングルをヘルプ、トランジションでも積極的にアシストを！

•ポストの見方

トレイル→ボールとポストの両方を視野に入れる

リード→スイッチサイドするかどうかをクルーで確認

※プライマリのマッチアップを失うリスクあり、トレイルはヘルプの準備

•リバウンドの協力

トレイル→ロートレイルを実践し、ペイントの判定に参加

リード→目の前のマッチアップが見える位置どりを取る

•プレイコーリングの極意

①そもそも触れ合いがないものはファウルとすることが出来ない

②レフリーディフェンスとLGPを考慮してコンタクトの責任を見極める

③RSBQを見ながら吹き急がない

•インミディエイトホイッスル

→ファウルの分析が必要ないものをすぐにコール(叩く、掴む、抱える)

•ケイデンスホイッスル

→プライマリが何らかの理由で鳴らせない場合に、遅れてセカンダリが明らかなイリーガルコンタクトを鳴らす

•ペイシエントホイッスル

→コンタクトがあっても吹き急がず「スタート・ディベロップ・フィニッシュ」の全体像を見て判定

担当試合①

期日	3月28日(土) 女子
対戦カード	深井 LP (大阪府) vs おきの (宮城県)
クルー	CC: 世利 彰伍氏 (福岡県) U: 吉澤 直也

ミーティング内容 審判主任: なし

▶ゲーム前のPGC

メンバー表からスカウティング、メカニクスの確認、特別競技ルールの確認、赤旗が上がった際の対応の確認

▶ゲーム後のミーティング

1点差の最後までわからないゲーム。その中でヘルプディフェンスの把握について課題が残った。
オフenseとヘルプディフェンスのどちらが先にコンタクトが起きた場所にいたのか確認する為に、位置関係とコンタクトが起こるであろう場所に早く位置取りをしていく必要がある。
またオフenseリバウンド後のショットで、崩れるケースがいくつか見られた。コンタクトの状況を踏まえ、どのようなプレーが起きたのか確認するひつようがある。またリード時に広がるだけでなく、時には踏み込んで判定することが必要。

担当試合②	
期日	3月29日(日) 女子
対戦カード	香椎東 SW (福岡県) vs 都跡 (奈良県)
クルー	CC: 吉澤 直也 U: 小西 晃希氏 (富山県)
ミーティング内容	審判主任: なし
<p>▶ゲーム前の PGC</p> <p>前日の試合映像からチームの特徴とキープレイヤーの確認、メカニクスの確認、特別競技ルールの確認、赤旗が上がった際の対応の確認</p> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <p>1 試合通して、白のヘルプディフェンスが遅れてコンタクトをするケースが目立った クルー間で共有しながら、お互いに鳴らし続けられた。</p> <p>タフに DF をする中で、手から接触しにくいプレーは簡単にコールする必要があった →選手のインテンシティが高まりやすい→やり返しが起こる可能性がある</p>	

担当試合③	
期日	3月30日(月) 男子
対戦カード	湖山西 (鳥取県) vs いずみクラブ (愛知県)
クルー	CC: 高榎 竜也氏 (大分県) U: 吉澤 直也
ミーティング内容	審判主任: なし
<p>▶ゲーム前の PGC</p> <p>メンバー表からキープレイヤーの確認、メカニクスの確認、赤旗が上がった際の対応の確認</p> <p>▶ゲーム後のミーティング</p> <p>ドライブ時の突き出しをもう少し整理したかった</p> <p>空中でキャッチしてドライブに行くケースと、走りながらボールをキャッチしてドライブに行くケースが多い中、より早く次にボールをもらうプレイヤーを把握する必要がある。</p> <p>エリア1にボールがある時に、エルボでオフボールのマッチアップがアクティブな場面がいくつか見られた。ロートレイルを意識することで、2つのマッチアップを同じポジションで長く見られるとよかった。</p>	

全体の感想

この度は、全国ミニバスケットボール大会への派遣していただきありがとうございました。
各チームの集大成ということもあり接戦も非常に多く、審判員としてコートに立つことの緊張と責任感を感じました。

また今大会では、特別競技ルールが採用されての大会となりました。
普段とは違うコートやルールではありましたが、そんな中でも選手たちは練習の成果を十二分に発揮し、観客を魅了するプレーも多々ありました。

その中で、大会の位置付けや選手ファーストといったところを意識しながら、レフリーに取り組みました。そして大会を経て、シンプルなプレーコーリング、ベーシックなメカニクスを1試合行い続けることの難しさと重要性を再認識しました。いつ、どんな時でもこれを実践し続けることが試合を正しい方向に進みません。より一層意識を変えていきたいと思います。

最後になりますが、眞榮喜審判部長をはじめ埼玉県審判部の皆様、本大会に派遣いただきありがとうございました。そして菅様をはじめとする東京都の皆様には、細部にわたりご配慮頂き大変お世話になりました。本当にありがとうございました。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。